

2019.4 – 2019.9

コースフロー / コースカリキュラム

クラウド / サーバ仮想化

サーバ仮想化やクラウドという
最新システムについての
基礎知識と技術が修得できます。

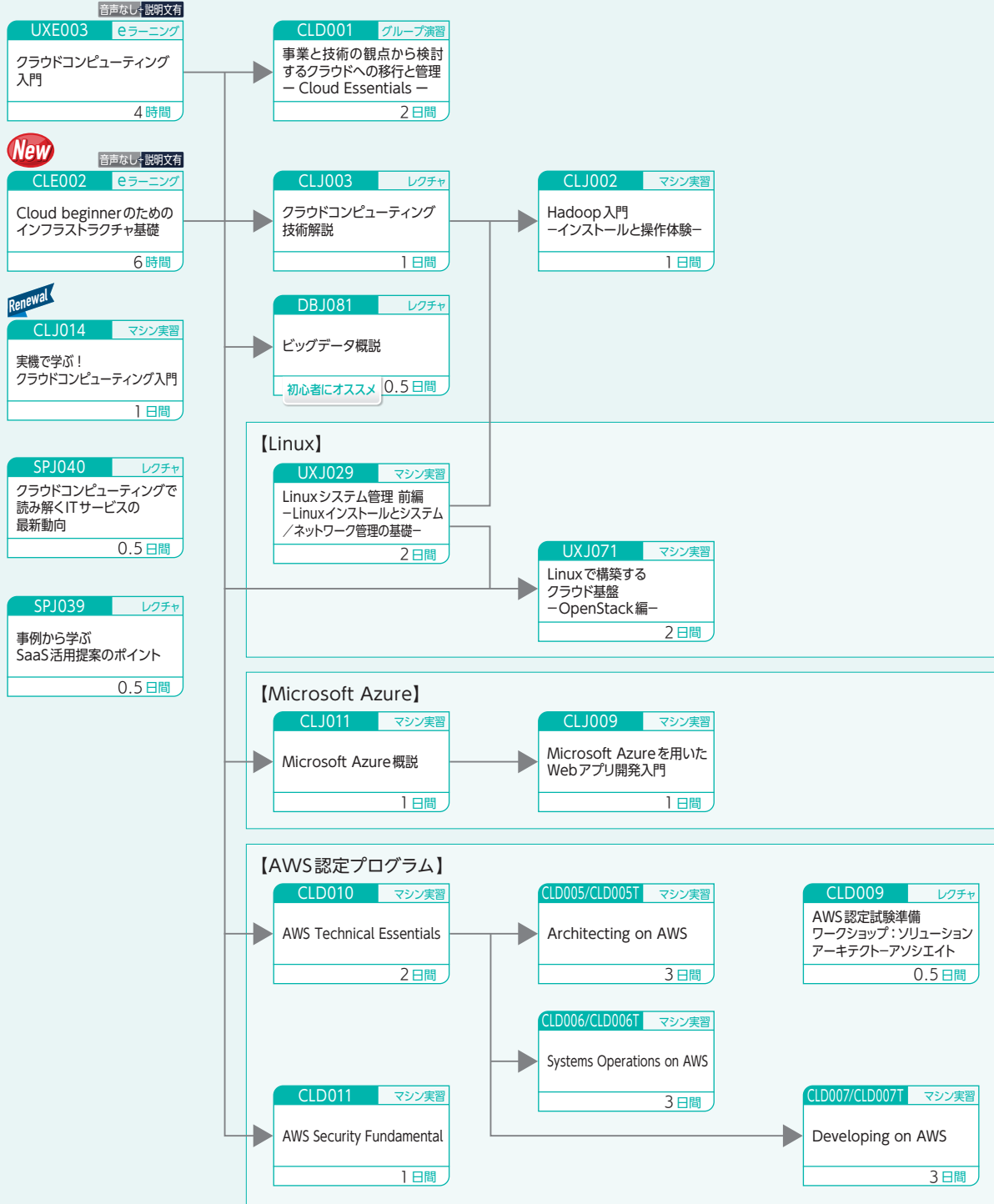
<https://www.hitachi-ia.co.jp/>

日立インフォメーションアカデミーホームページ

クラウド/サーバ仮想化

サーバ仮想化やクラウドという最新システムについての基礎知識と技術が修得できます。

● クラウド基盤の基礎知識や技術を修得したい方



資格 アマゾン ウェブ サービス (AWS) 認定資格

AWS 認定資格は、AWS プラットフォームで稼働するアプリケーションの設計、デプロイ、管理に必要なスキルと技術知識を有する IT プロフェッショナルであることを証明します。認定資格を取得することにより AWS に関してスキルや知識を有していることを証明できるだけでなく、所属組織が AWS ベースのアプリケーションを運用構築ができる人材を有していることを証明します。

詳しくは、日立インフォメーションアカデミーのwebサイトにてご確認ください。

<https://www.hitachi-ia.co.jp/course/intro/license/aws/index.html>

● サーバ仮想化の基礎知識や技術を修得したい方

CLJ005 マシン実習 実機で学ぶ！サーバ仮想化入門 -VMware vSphere、 Microsoft Hyper-V、KVM- 1 日間	音声有・説明文なし CLE703 eラーニング 【ナビ機能付き】 ストレージ関連者向け サーバ仮想化技術概説 3 時間
---	---

【Microsoft】

CLJ010 マシン実習 実践!Hyper-Vのインストール から可用性向上まで -Windows Server 2016編- 1 日間

【VMware】

VMJ006 マシン実習 VMware vSphere システム構築実習 [V6.5] -実装編- 2 日間	VMD007 マシン実習 VMware vSphere : Install, Configure, Manage [V6.5] 5 日間
---	---

【Linux】

UXJ074 研修室自習型 Linuxで構築する KVM 仮想化環境 1 日間	UXJ076 マシン実習 Linuxにおける コンテナ環境の管理 -Kubernetes編- 1 日間
---	--

● VMware認定資格の取得をめざす方

<VMware Certified Professional (VCP : VMware 認定プロフェッショナル)>

VMD007 マシン実習 VMware vSphere : Install, Configure, Manage [V6.5] 5 日間

音声有・説明文有 : 学習の説明画面とナレーション(説明テキスト)で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

音声有・説明文なし : 収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境が必須となります。

音声なし・説明文有 : 学習の説明画面と説明テキストで学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

初心者におススメ : コンピュータ未経験の方が前提知識なく学習できる当該分野の最初のコースです。

資格 VMware 認定資格

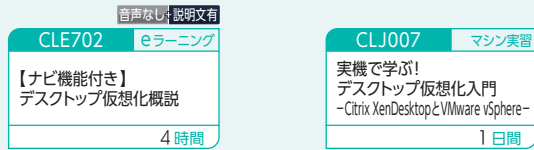
VMware認定資格とは、VMwareソリューションの導入・展開を担う技術者を育成するために、VMware社が提供している認定プログラムです。主なVMware認定資格には、VMware Certified Professional (VCP) - VMware 認定プロフェッショナルがあります。

詳しくは、日立インフォメーションアカデミーのwebサイトにてご確認ください。

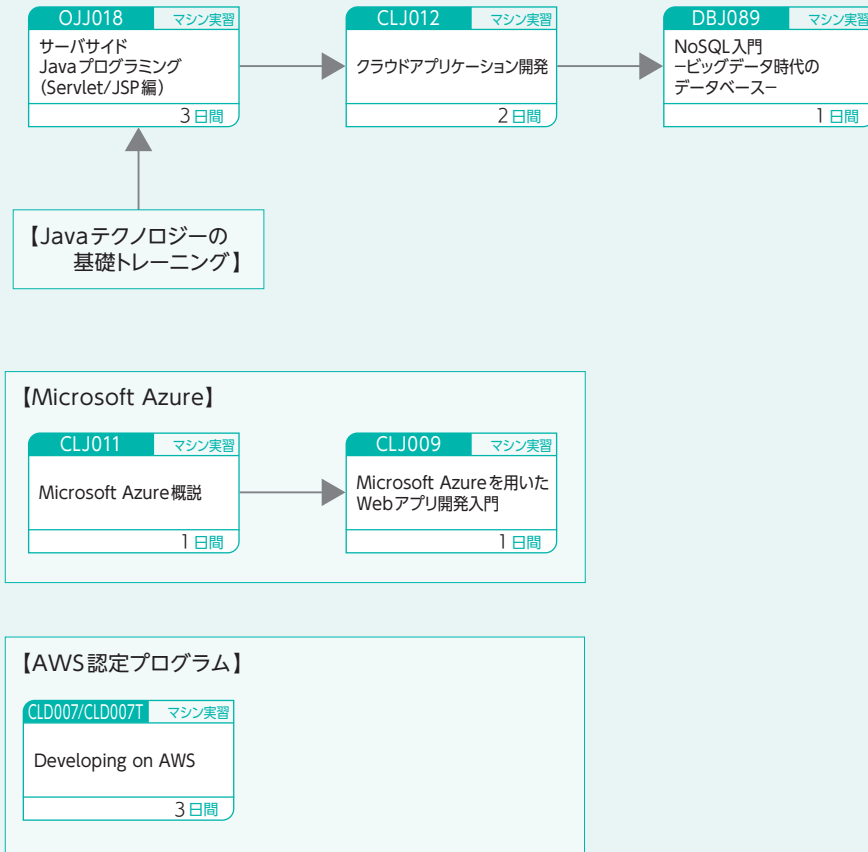
<https://www.hitachi-ia.co.jp/course/intro/license/vmware/index.html>



● デスクトップ仮想化の基礎知識や技術を修得したい方



● クラウド環境で動作するアプリケーションを開発する方





音声有、説明文有 : 学習の説明画面とナレーション（説明テキスト）で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。


音声有、説明文なし : 収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境が必須となります。



音声なし、説明文有 : 学習の説明画面と説明テキストで学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

初心者におすすめ : コンピュータ未経験の方が前提知識なく学習できる当該分野の最初のコースです。


CLE703	クラウド/サーバ仮想化
	<eラーニング> [ナビ機能付き] ストレージ関連者向け サーバ仮想化技術概説
平均3時間	
VMware・Hyper-Vなどのサーバ仮想化環境で日立ストレージを動作させる場合のシステム構成・ポイントをサーバ仮想化の基本技術を交えて学習します。	
到達目標	VMware・Hyper-Vなどのサーバ仮想化環境で日立ストレージを動作させる場合のシステム構成・ポイントをサーバ仮想化の基本技術を理解できる。
対象者	ストレージ関連の方で、サーバ仮想化に興味のある方。
前提知識	特に必要としません。
内容	1. サーバ仮想化概要 2. 代表的なサーバ仮想化製品 3. サーバ仮想化環境でのストレージ関連設定 4. 修了試験
備考	・終了日は9月30日になります。 ・収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのコースです。(音声の再生環境が必須です。) ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。 ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。

CLJ005	クラウド/サーバ仮想化
	実機で学ぶ! サーバ仮想化入門 -VMware vSphere、 Microsoft Hyper-V、KVM-
1日間	
サーバ仮想化の基礎を解説し、市場で大きなシェアを持っているVMware vSphere、Microsoft Hyper-V、KVMを利用したサーバ仮想化方法を実機で学習します。	
到達目標	・サーバ仮想化の概要を説明できる。 ・各種製品 (VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、KVM) をインストールしこれらの製品を使用して仮想サーバを作成できる。
対象者	サーバ仮想化の提案、構築を行う営業、SEの方。
前提知識	特に必要としません。
内容	1. サーバ仮想化の概要 2. VMware vSphereの概要と特徴 (1) 演習1: VMware vSphereのインストールと仮想サーバの作成 3. Hyper-Vの概要と特徴 (1) 演習2: Microsoft Hyper-Vのインストールと仮想サーバの作成 4. KVMの概要と特徴 (1) 演習3: KVMのインストールと仮想サーバの作成
備考	・このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。 ・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。


CLJ007	クラウド/サーバ仮想化
	実機で学ぶ! デスクトップ仮想化入門 -Citrix XenDesktopと VMware vSphere-
1日間	
・仮想デスクトップ用仮想マシンの作成から、管理、クライアントでの接続までの一連の作業を実機ベースで行い、デスクトップ仮想化環境を構成する各種サーバ類の役割を学習します。 ・複数の仮想デスクトップ構成パターンを実装し、各方式の特徴(長所/短所)を学習します。	
到達目標	デスクトップ仮想化の実現に必要なシステムインフラの構成と役割を説明できる。
対象者	デスクトップ仮想化ソリューションを提案・構築する営業、SEの方。
前提知識	サーバ仮想化の基礎知識があること。
内容	1. デスクトップ仮想化の仕組み (1) デスクトップ仮想化とは (2) デスクトップ仮想化のシステム構成 2. 仮想デスクトップの作り方 (1) 仮想デスクトップへの接続の流れ (2) 仮想デスクトップ用仮想マシンの作成 (3) 仮想デスクトップ接続用クライアント 3. デスクトップ仮想化 導入の注意点 (1) ライセンス (2) デスクトップ仮想化システムのポトルネックについて
備考	・このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。 ・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。


CLJ014	クラウド/サーバ仮想化
	実機で学ぶ! クラウドコンピューティング入門
1日間	
AWSとMicrosoft Azureの概要や違いを実機を操作しながら学習します。	
到達目標	・AWSとMicrosoft Azureの概要を理解し、基本的な違いを説明できる。 ・仮想マシンの起動など、AWSとMicrosoft Azureの操作コンソールで基本的な操作ができる。
対象者	これからクラウドを利用・提案するうえで、主要なパブリッククラウドを比較検討したい方。
前提知識	コンピュータの基礎知識をお持ちのこと。
内容	1. クラウドコンピューティングの概要 2. AWS 3. Microsoft Azure 4. AWSとMicrosoft Azureの比較
備考	このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。 ※別途ご案内いたします。


CLE702	クラウド/サーバ仮想化
	<eラーニング> [ナビ機能付き] デスクトップ仮想化概説
平均4時間	
デスクトップを仮想化することで得られるメリット/デメリットと、その実現の仕組みを学習します。また、デスクトップ仮想化の2大製品であるVMware ViewとCitrix XenDesktopの特徴を紹介いたします。	
到達目標	・デスクトップを仮想化することでのメリット/デメリットが説明できる。 ・デスクトップ仮想化の実現に必要な機能・役割を説明できる。 ・デスクトップ仮想化の2大製品であるVMware ViewとCitrix XenDesktopの特徴を理解できる。
対象者	デスクトップ仮想化製品をこれから扱うSEおよび営業の方。
前提知識	特に必要としません。
内容	1. デスクトップ仮想化の概念 (1) この章で学ぶこと (2) デスクトップの仮想化とは (3) デスクトップ仮想化のメリット・デメリット 2. デスクトップ仮想化のシステム構成 (1) この章で学ぶこと (2) デスクトップ仮想化のシステム構成 3. 代表的なデスクトップ仮想化製品について (1) この章で学ぶこと (2) VMware Horizon (with View) (3) Citrix XenDesktop (4) 日立SPC (5) VDIライセンスについて 4. 修了試験
備考	・終了日は9月30日になります。 ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。) ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。 ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。


LUXE003	クラウド/サーバ仮想化
	<eラーニング> クラウドコンピューティング入門
平均4時間	
クラウドコンピューティングの基本的な内容、適用技術を学習します。	
到達目標	クラウドコンピューティングの概要を説明できる。
対象者	クラウドコンピューティングに関する基礎的な知識を必要とする方。
前提知識	特に必要としません。
内容	1. クラウドコンピューティングとは (1) クラウドコンピューティングの定義 (2) クラウドコンピューティングの背景と出現 (3) クラウドコンピューティングの提供形態 (4) クラウドコンピューティングのサービスモデル (5) クラウドコンピューティングの歴史 (6) クラウドコンピューティングのメリット、デメリット (7) クラウドコンピューティングの動向 2. クラウドコンピューティングの適用 (1) パブリッククラウドの適用 (2) プライベートクラウドの構築と運用 (3) クラウドを支える基礎技術 3. 修了試験
備考	・終了日は9月30日になります。 ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。) ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。 ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。


マシン実習
マシンを使用しながらの研修グループ学習
グループ演習を中心とした研修レクチャ
座学による研修演習環境
現場・自宅などのマシン演習環境を使用した自己学習研修室自習型
研修室でのマシン演習環境を使用した自己学習eラーニング
インターネット接続による自己学習自習テキスト
自習書による自己学習

CLE002	クラウド/サーバ仮想化
	<eラーニング> Cloud beginnerのための インフラストラクチャ基礎
平均6時間	New
サーバ、ネットワーク、ストレージ、認証、DNS(名前解決)、データベース、HA、バックアップ、クラウドの基本(XaaS、仮想化、パブリック/プライベートクラウド)といった点について、クラウドの研修を受講する前に押さえておきたい基礎を学習します。	
到達目標	クラウドを利用するうえで必要となるインフラの基礎知識を修得し、AWS認定コースなどのクラウド研修の前提知識を修得できる。
対象者	・これからクラウドを利用するにあたり、インフラの幅広い知識を修得したい方。 ・AWS認定コースなどのクラウド研修を受講前に、前提知識を修得したい方。
前提知識	コンピュータの基礎知識があること。
内容	1. 仮想サーバ 2. ストレージ 3. コンテナ 4. ネットワーク 5. DNS 6. データベース 7. バックアップ 8. 可用性 9. クラウド
備考	・終了日は9月30日になります。 ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。) ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。 ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。


CLJ003	クラウド/サーバ仮想化
	クラウドコンピューティング 技術解説
1日間	
クラウドコンピューティングの概要と要素技術、クラウドソリューションの全体像について学習します。	
到達目標	・クラウドの概要と種類を理解できる。 ・クラウドの要素技術を理解できる。
対象者	IT新技術に興味をお持ちのSE、ソフトウェア開発者の方。特に必要としません。
前提知識	1. クラウドコンピューティングの概要 2. クラウド・サービス 3. クラウドを支える革新技術群
内容	
備考	このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。


CLJ012	クラウド/サーバ仮想化
	クラウドアプリケーション開発
2日間	
クラウド環境によるアプリケーションを効果的に設計するうえで、必須となる「スケール」について学習します。従来の3層アーキテクチャでのアプリケーション構造との比較、留意点などの知識を学習します。マシン実習では、Amazon Web Servicesを利用します。	
到達目標	・スケールアウトするうえで注意すべき点を理解できる。 ・スケラビリティを意識した設計ができる。 ・Webアプリケーションをスケールアウトさせる実装ができる。
対象者	クラウド環境化でのWebアプリケーションを設計される方。
前提知識	「サーバサイドJavaプログラミング(Servlet/JSP編)」コースを修了しているか、または同等の知識があること。
内容	1. クラウド概要 2. クラウドアプリケーションの特性 3. Webレイヤでのスケール 4. APIレイヤでのスケール 5. DBレイヤでのスケール
備考	・このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。 ・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。


CLD001	クラウド/サーバ仮想化
	事業と技術の観点から検討する クラウドへの移行と管理 -Cloud Essentials-
2日間	
特定の技術やベンダーに依存しない、汎用的なクラウドの事業上および技術的な観点について学習します。クラウドの導入、運用および管理の方法についての理解を深めます。	
到達目標	・クラウドの事業上の利点、考慮点を理解しお客様にクラウドサービスのコンサルテーションができるようになる。 ・ITサービスマネジメントの観点からクラウド・コンピューティングへ移行する場合の検討事項を理解できる。
対象者	クラウドサービスの提案を行うSE・営業の方。
前提知識	「クラウドコンピューティング技術解説」コースを修了しているか、または同等の知識があること。
内容	1. クラウド・コンピューティングの概要 2. 事業上の観点 3. 技術上の観点 4. クラウド・コンピューティングの導入 5. クラウド・コンピューティングの運用 6. クラウド・コンピューティングの管理
備考	・このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。 ・このコースは、CompTIA社認定コースです。 ・開始日10営業日前を過ぎてのキャンセルおよび日程変更は、キャンセル料金として受講料の全額をご負担いただきます。 ・このコースは「研修のみ」です。認定試験および受験費用は含まれていません。資格を取得するには、別途ピアソンVUEでの受験が必要となります。 ・このコースの内容は、予告なく変更される場合があります。 ・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けさせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いいたします。


CLJ011	クラウド/サーバ仮想化
	Microsoft Azure概説
1日間	
Microsoft Azureの概要およびMicrosoft AzureのPaaS機能、IaaS機能について学習します。マシン実習によりMicrosoft AzureのPaaS、IaaSに対する理解を深めます。なお、演習では、2015年12月から正式提供が開始された新ポータルを使用します。	
到達目標	・Microsoft Azureの概要を説明できる。 ・簡単なプログラムを開発しMicrosoft AzureのPaaS機能を利用できる。 ・Microsoft AzureのIaaSを利用した仮想マシンを作成できる。
対象者	ITエンジニア職、若手・中堅の方で、Microsoft Azureを初めて学習する方。
前提知識	「クラウドコンピューティング入門」eラーニングコースを修了しているか、または同等の知識があること。
内容	1. Microsoft Azureの概要 2. Microsoft AzureによるPaaS 3. Microsoft AzureによるIaaS
備考	このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。


CLJ009	クラウド/サーバ仮想化
	Microsoft Azureを用いた Webアプリ開発入門
1日間	
Microsoft AzureのWeb Appsやクラウドサービス上に、Webアプリを開発、配置する方法を、マシン実習を通して学習します。また、WebアプリのデータをSQLデータベースやストレージに保存する方法も学習します。	
到達目標	・Microsoft Azure上で動作するWebアプリの開発方法を説明できる。 ・Microsoft Azure上でWebアプリを動作させるためのサービスの概要を説明できる。 ・Microsoft Azure上で動作する簡単なWebアプリを開発できる。 ・Microsoft Azure上のSQLデータベースと連携するWebアプリを開発できる。
対象者	・Microsoft Azure上で動作するWebアプリを開発したい方。 ・Microsoft Azure上で動作するWebアプリの開発方法を知りたい方。
前提知識	「Microsoft Azure概説」コースを修了しているか、同等の知識があること。
内容	1. Microsoft Azureで動作するWebアプリの開発概要 2. Web Appsを利用したWebアプリ開発 3. クラウドサービスを使用したWebアプリ開発 4. ストレージサービスの利用 5. SQLデータベースの利用
備考	・このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。 ・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。


CLD010 クラウド/サーバ仮想化	
	AWS Technical Essentials
2日間	
AWSの特徴やコアサービスを学習し、コアサービスを利用して高い可用性を持つWebシステムを構築します。構築したWebシステムの性能監視とログの収集やバックアップなどを実施し、AWS上のシステムの基本的な運用管理を学習します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データセンター設計の基本概念を理解できる。 AWSプラットフォームに関連する用語と概念を理解し、AWSマネジメントコンソールを操作できる。 VPC、EC2、EBS、S3、RDS、Auto Scaling、およびELBといった基礎インフラストラクチャサービスを理解し基本的な操作ができる。 AWSの提供するセキュリティ対策と、IAMの主要概念を理解できる。 AWSの性能監視およびログ収集のサービスであるAmazon CloudWatchを理解し基本的な操作ができる。 AWS Trusted Advisorを理解できる。 AWSのコアサービスを使って、スケラブルで可用性のあるWebシステムを構築できる。 Webシステムのバックアップとリカバリができる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> これからAWSを使い始める方。 AWSのサービスについて技術上の利点をお客様に説明する方。 AWSのソリューションアーキテクト(設計構築者)、システム運用管理者、および開発者めざす方。
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> Linux OSまたは、UNIX OSの導入、管理経験があること(必須)。 一般的なネットワーク概念に関する知識があること(推奨)。 リレーショナルデータベース管理システム(RDBMS)の知識があること(推奨)。 Webシステム構築・運用経験または知識があること(推奨)。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. AWSの紹介と歴史 2. AWSインフラストラクチャ: コンピューティング、ストレージ、およびネットワーク 3. AWSのセキュリティ、アイデンティティ、およびアクセス管理 4. AWSのデータベース 5. AWS管理ツール 6. EC2とRDSで最も構成のプログラムを構築する 7. ELBとRDSのMulti-AZ構成およびS3を使用して高い可用性のプログラムを構築する 8. CloudWatchとCloudWatch Logsを使用して性能の監視およびログの収集を実現する 9. EC2とRDSのスペック変更とEBSボリュームサイズの変更 10. Auto Scalingによるスケラビリティの実現 11. EC2およびRDSのバックアップの取得とリカバリ
備考	<p>このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。</p> <p>このコースは、AWS社認定コースの「AWS Technical Essentials 1」と「AWS Technical Essentials 2」をセットで提供するものです。</p> <p>このコースは、2017年3月まで実施のAWS社認定コース「AWS実践入門1」「AWS実践入門2」コースの後継コースです。</p> <p>このコースは、Gilmore社が提供する電子テキストを使用するため、研修受講にあたりGilmore社のアカウント登録が必要です。</p> <p>電子テキストのライセンスコードは研修初日に配布いたしますので、Bookshelfのアカウント登録は研修開始時にお願いたします。</p> <p>既にBookshelfのアカウントをお持ちでしたら、ログインID(メールアドレス)とパスワードをご持参ください。</p> <p>このコースの内容は、予告なく変更される場合があります。</p>
※別途ご案内いたします。	


CLD005/CLD005T クラウド/サーバ仮想化	
	Architecting on AWS
3日間	
Amazon Web Services (AWS) のサービスを使用してデザインし、構築する方法を学習します。また、伸縮自在性、スケラビリティ、セキュリティ、および高可用性のための設計コンポーネントと機能について学習します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> AWS上での、一般的なアーキテクチャパターンを理解できる。 拡張性、柔軟性、高可用性を考慮したシステム設計を理解できる。 クラウドへの移行パスを理解できる。 コスト最適化を考慮したシステム設計を理解できる。
対象者	AWSのアーキテクトおよびシステム設計をする方、AWSをお客様へ提案する方。
前提知識	「AWS Technical Essentials」コース、または2017年3月まで実施していた旧コース「Amazon Web Services 実践入門 1」〜「日」で学ぶ、AWSクラウド活用」および「Amazon Web Services 実践入門 2」AWSクラウドのサービス実践編」コースを修了しているか、または同等の知識があること(必須)。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルインフラストラクチャ活用 2. クラウドのオプション拡張 3. クラウドでのコンピューティング 4. ストレージサブシステムの設計 5. 分散型環境 6. データストアの選択 7. ウェブスケールのメタデータホスティング設計 8. イベント駆動型のスケラリング 9. コードとしてのインフラストラクチャ 10. バッチ処理のオーケストレーション 11. 大規模な設計パターンの確認 12. 費用を考慮した設計 13. 高可用性および災害復旧の計画
備考	<p>このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。</p> <p>このコースは、AWS社認定コースです。</p> <p>このコースは、Gilmore社が提供する電子テキストを使用するため、研修受講にあたりGilmore社のアカウント登録が必要です。</p> <p>電子テキストのライセンスコードは研修初日に配布いたしますので、Bookshelfのアカウント登録は研修開始時にお願いたします。</p> <p>既にBookshelfのアカウントをお持ちでしたら、ログインID(メールアドレス)とパスワードをご持参ください。</p> <p>このコースの内容は、予告なく変更される場合があります。</p>
※別途ご案内いたします。	


CLD006/CLD006T クラウド/サーバ仮想化	
	Systems Operations on AWS
3日間	
AWSプラットフォームにおいて可用性が高くスケラブルなインフラストラクチャを運用する方法を学習します。また、インフラストラクチャのプロビジョニング、アプリケーションのデプロイ、コスト配分の把握、監視の活用、バックアップの作成などについて学習します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Amazon EC2 の機能を使用してコンピューティングインフラストラクチャのプロビジョニング、モニタリング、スケラリング、および分散を行う方法を理解できる。 Amazon VPCのリソースを作成できるAWSのサービスを使用してAWSおよびオンプレミスのリソースをバックアップできる。 Amazon CloudWatchのメトリクスを利用してAWSのリソースの稼働状態と使用率を監視できる。 模範的な構成のイメージを作成し、VPCで Auto Scalingを利用できる。
対象者	AWSプラットフォームでの運用をサポートするシステムアドミニストレータ、オペレーションマネージャの方。
前提知識	「AWS Technical Essentials」コース、または2017年3月まで実施していた旧コース「Amazon Web Services 実践入門 1」〜「日」で学ぶ、AWSクラウド活用」コースを修了しているか、または同等の知識があること(必須)。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. AWSにおける運用管理とは 2. 仮想マシン(EC2)の運用管理 3. ネットワーク(VPC)の運用管理 4. ストレージの運用管理 5. AWSにおける監視 6. AWSにおけるコスト管理 7. EC2の自動初期設定 8. AWSにおける自動スケール 9. デプロイの自動化
備考	<p>このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。</p> <p>このコースは、AWS社認定コースです。</p> <p>このコースは、Gilmore社が提供する電子テキストを使用するため、研修受講にあたりGilmore社のアカウント登録が必要です。</p> <p>電子テキストのライセンスコードは研修初日に配布いたしますので、Bookshelfのアカウント登録は研修開始時にお願いたします。</p> <p>既にBookshelfのアカウントをお持ちでしたら、ログインID(メールアドレス)とパスワードをご持参ください。</p> <p>このコースの内容は、予告なく変更される場合があります。</p> <p>このコースは、「受験/バウチャーチェック無し」と「受験/バウチャーチェック付き」の2種類がありますので、お申し込み時はお間違えのないようお願いいたします。</p> <p>コースコード: CLD006(受験/バウチャーチェック無し)</p> <p>コースコード: CLD006T(受験/バウチャーチェック付き)</p>
※別途ご案内いたします。	

CLD007/CLD007T クラウド/サーバ仮想化	
	Developing on AWS
3日間	
セキュアで信頼性が高く、スケラブルなAWSベースのアプリケーションを設計、構築する方法を学習します。AWS コードドライブライ、SDK、IDEツールキットの使い方も学習し、AWSプラットフォームでの効率的なコード開発とデプロイの方法を学習します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> SDKとIDEツールキットをインストールして設定できる。 基本的なサービス操作をJavaを利用して自動化できる。 セキュリティモデルを使用したAWSへのアクセスを管理できる。 AWSでのデプロイメントモデルと利用方法を理解できる。
対象者	AWSプラットフォームでソフトウェア(アプリケーション)を開発する方。
前提知識	「AWS Technical Essentials」コース、または2017年3月まで実施していた旧コース「Amazon Web Services 実践入門 1」〜「日」で学ぶ、AWSクラウド活用」コースを修了しているか、または同等の知識があること(必須)。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア開発の実務的知識、クラウドコンピューティングの概念の知識、Javaの基本的な知識があること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. AWS コードドライブライ、SDK、IDE ツールキットを使用する作業 2. AWS のセキュリティ機能の紹介 3. Amazon S3および Amazon DynamoDB を使用するためのサービスオブジェクトモデルと基本的な概念 4. Amazon SQSおよび Amazon SNSを利用するためのサービスオブジェクトモデルと基本的な概念 5. AWS のセキュリティ機能を活用 6. AWS Elastic Beanstalk を利用するアプリケーションデプロイメント 7. AWS のサービスを利用するためのベストプラクティス
備考	<p>このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。</p> <p>このコースは、AWS社認定コースです。</p> <p>このコースは、Gilmore社が提供する電子テキストを使用するため、研修受講にあたりGilmore社のアカウント登録が必要です。</p> <p>電子テキストのライセンスコードは研修初日に配布いたしますので、Bookshelfのアカウント登録は研修開始時にお願いたします。</p> <p>既にBookshelfのアカウントをお持ちでしたら、ログインID(メールアドレス)とパスワードをご持参ください。</p> <p>このコースの内容は、予告なく変更される場合があります。</p> <p>このコースは、「受験/バウチャーチェック無し」と「受験/バウチャーチェック付き」の2種類がありますので、お申し込み時はお間違えのないようお願いいたします。</p> <p>コースコード: CLD007(受験/バウチャーチェック無し)</p> <p>コースコード: CLD007T(受験/バウチャーチェック付き)</p>
※別途ご案内いたします。	

CLD009 クラウド/サーバ仮想化	
	AWS認定試験準備ワークショップ: ソリューションアーキテクト-アソシエイト
0.5日間	
AWS認定ソリューションアーキテクト-アソシエイトの受験に向けて、問題の形式や出題される分野などを紹介します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 試験プロセスの注意事項を確認できる。 試験の構成と問題のタイプを理解できる。 AWSのアーキテクチャに関する概念をテストするために、どのように問題が出題されるかを理解できる。 試験問題でテストされるポイントを理解できる。
対象者	AWS認定ソリューションアーキテクト-アソシエイト試験を受験予定の方。
前提知識	「Architecting on AWS」コースを修了しているか、または同等の知識があること。
内容	<ul style="list-style-type: none"> AWSにおけるシステムのスケラビリティ、可用性、高耐障害性の設計およびデプロイに関する1年以上の実務経験があること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 試験センターに関する情報と心構え 2. 試験の概要と構造 3. 扱われる分野と問題の内訳 4. 扱われる分野のトピックと概念 5. 問題の構造と問題を解釈するポイント
備考	<p>このコースは、13:00～17:00の開催とさせていただきます。</p> <p>このコースは、AWS社認定コースです。</p> <p>このコースは、Gilmore社が提供する電子テキストを使用するため、研修受講にあたりGilmore社のアカウント登録が必要です。</p> <p>電子テキストのライセンスコードは研修初日に配布いたしますので、Bookshelfのアカウント登録は研修開始時にお願いたします。</p> <p>既にBookshelfのアカウントをお持ちでしたら、ログインID(メールアドレス)とパスワードをご持参ください。</p> <p>このコースの内容は、予告なく変更される場合があります。</p>
※別途ご案内いたします。	

CLD011 クラウド/サーバ仮想化	
	AWS Security Fundamental
1日間	
クラウドコンピューティングとAWSセキュリティの基礎的な概念を紹介します。AWS アクセスクントロールと管理、ガバナンス、ロギング、および暗号化の方法を説明し、さらに、セキュリティ関連のコンプライアンス規格、およびAWSサービスの初歩的なセキュリティ機能についても扱います。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> AWSクラウドを使用する価値と、セキュリティ上のメリットを理解できる。 AWSセキュリティ責任分担モデルについて理解できる。 AWSの各種サービスのアクセスコントロールとアクセス管理機能について理解できる。 規模別のセキュリティと暗号化の方法を含む、AWSセキュリティについて理解できる。 AWSコンプライアンス保証プログラムについて理解できる。 AWSサービスの初歩的なセキュリティについて理解できる。
対象者	AWSクラウドを導入する/導入支援するうえで、AWSのセキュリティ/コンプライアンス面で不安があり、導入に踏み切れない方。
前提知識	これらAWSクラウドを利用する方。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラウドコンピューティングとAWSセキュリティの紹介 2. アクセスクントロール/管理 3. AWSセキュリティ: ガバナンス、ロギング、および暗号化 4. コンプライアンスとリスク管理 5. AWSセキュリティアーキテクチャの基礎
備考	<p>このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。</p> <p>このコースは、AWS社認定コースです。</p> <p>このコースは、Gilmore社が提供する電子テキストを使用するため、研修受講にあたりGilmore社のアカウント登録が必要です。</p> <p>電子テキストのライセンスコードは研修初日に配布いたしますので、Bookshelfのアカウント登録は研修開始時にお願いたします。</p> <p>既にBookshelfのアカウントをお持ちでしたら、ログインID(メールアドレス)とパスワードをご持参ください。</p> <p>このコースの内容は、予告なく変更される場合があります。</p>
※別途ご案内いたします。	

VMJ006 クラウド/サーバ仮想化	
 マシン実習 2日間	VMware vSphere システム構築実習[V6.5]—実装編—
VMware vSphere 6.5を使用した仮想環境の構築方法を、マシン実習を通して学習します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> サーバ仮想化に関連するVMware製品の概要を説明できる。 VMware vSphere 6.5を使用して、基本的な仮想環境を構築できる。 仮想マシンを作成し、リソース割当ての適正な管理ができる。 vSphere DRSを使用して、ESXiホスト間の負荷分散ができる。 VMware vSphere環境における信頼性の考え方を説明でき、vSphere HAを使用して、仮想マシンの可用性を確保できる。 VMware vSphereシステムのセキュリティ対策の概要を説明できる。 VMware vSphereシステムの運用、保守の概要を説明できる。
対象者	VMware vSphereを使用した仮想環境を提案・構築予定の方。
前提知識	サーバやSANの基礎知識があること。
内容	<ol style="list-style-type: none"> VMware製品概要 VMware vSphere環境の構築 仮想マシンの作成 VMware vSphereによる仮想化の仕組み 仮想環境ならではの機能 リソースの管理と監視 ESXiホスト間の負荷分散 VMware vSphere環境における可用性の確保 セキュリティの強化 VMware vSphereシステムの運用、保守
備考	<ul style="list-style-type: none"> このコースは、9:30～17:00の開催とさせていただきます。 このコースは、日立 講習会オリジナルコースです。VMware社認定コースではありません。 このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。

VMD007 クラウド/サーバ仮想化	
 マシン実習 5日間	VMware vSphere : Install, Configure, Manage [V6.5]
ESXiとvCenter Serverを含むVMware vSphere 6.5のインストール、構成、管理を、マシン実習を通して5日間で学習します。VCP6-DCV資格受験のために、受講必須のVMware社認定コースです。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ESXiとvCenter Serverのインストールと構成ができる。 vCenter Serverを使用して、ESXiを構成、管理できる。 仮想マシンを管理、展開できる。 vCenter Serverを使用して、信頼性、拡張性を向上できる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ITエンジニア職、若手・中堅の方でVMware vSphere v6.5を初めて学習する方。 VCP-DCV 6.5を受験する方。
前提知識	サーバ、LAN、SANの基礎知識があり、WindowsやLinuxのシステム管理経験があること。
内容	<ol style="list-style-type: none"> コースについて Software-Defined Data Center 仮想マシンの作成 vCenter Server 仮想ネットワークの設定および管理 ストレージの設定および管理 仮想マシンの管理 リソースの管理および監視 vSphere HAおよびvSphere FT ホストのスケラビリティ vSphere Update Managerおよびホストのメンテナンス
備考	<ul style="list-style-type: none"> このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。 このコースは、VMware社の認定コースです。 このコースは、VMware社が提供する電子教材を使用します。 このコースは「研修のみ」です。VCP試験および受験費用は含まれていません。資格を取得するには、別途ピアソンVUEでの受験が必要となります。 このコースは、研修受講にあたりVMware社のアカウント登録が必要です。事前登録の詳細は別途ご連絡します。登録いただいた情報は、VMware社へ提供いたします。 このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。

HITACHI

Inspire the Next

各種研修サービスに関するお問い合わせ

地 区	T E L	F A X
東 京	03-5471-8962	03-5471-2564
大 阪	06-4797-7360	06-4797-7361
名 古 屋	052-269-8940	052-261-8276
広 島	082-546-6172	082-546-6173
福 岡	092-844-7522	092-844-7580

日立講習会お問い合わせ窓口 ▶ <https://www.hitachi-ia.co.jp/inquiry/index.html>